

## 分娩後後産の処理に 対する理解

静内診療所 前田昌也

繁殖シーズン真最中で既に多くの分娩が済んでいるかと思えます。昨年私はこの場で後産停滞の新しい処置法について紹介したのですが、日常の往診を回っていると、後産が落ちないという連絡で伺ったら後産の不適切な処置が原因となっていることが多いので、改めて触れてみることにしました。

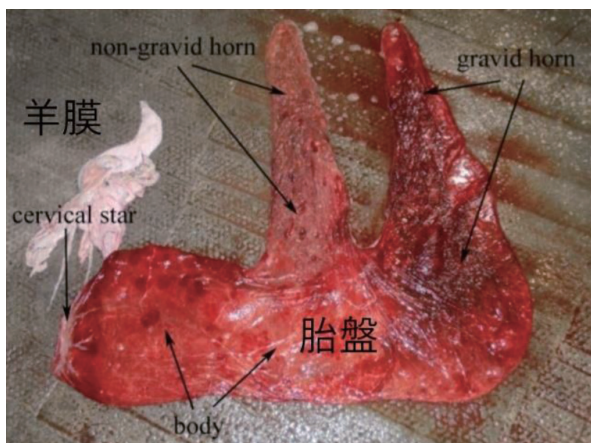
「重りをぶら下げてもなかなか落ちない」という稟告で多いのが胎盤に正しく重みをかけることが出来ていない例です。ざっくり後産は①胎盤 (red bag)、②羊膜 (white bag)、③臍帯で構成されていると考えていただく (写真左) と、羊膜だけに重みを乗せても胎盤はスムーズに落ちません。羊膜や臍帯の重みを胎盤に乗せ、補助的に他の重りをつけるのも胎盤に直接であることが重要です。羊膜だけに重みを乗せて切れ落ちると、胎盤停滞による産褥熱をはじめ重篤な疾患を引き起こしかねないので要注意です。英語の俗称通り、白い羊膜を赤い胎盤に紐で縛り付けるのが大事です。重りはペットボトルなどを使用する方が多いですが、私は落ちてから踏んでも安全なよう、濡れたバスタオルを巻き

付けるように勧めています。

「裂けて胎盤がどれくらい残っているかわからない」という連絡も受けますが、胎盤を広げて確認する習慣は皆さんの大切な役目です。アルファベット“F”のような形を確認して、欠損部位があれば獣医師による処置が必要です。

「羊膜しか見えないから胎盤に縛ることが出来ない」という訴えは確かにその通りであることが多い半面、実は胎盤が出ているのに羊膜と見間違えていることがあります。前述のred bagという俗称とは違ってしまいましたが、胎盤は裏表で見た目がずいぶん異なります。絨毛膜側 (子宮に接地している面) は赤い (写真左) のですが、尿膜側 (胎仔に面している側) は青白く脈管構造が見られ (写真右)、これが羊膜と誤解されることがあります。尿膜面を見落とさず、そこに羊膜の重みをかけるようにしましょう。

私たち組合獣医師よりも確実に多くの出産に立ち会う皆さんにとって後産の処置は大事です。もちろん獣医師への依頼に対する判断も大事です。分娩後3時間以上の停滞は異常と思われ、6時間経過すると子宮収縮薬の反応が悪くなり処置がさらに大変になります。残りのお産に向けて覚えていただけると幸いです。



引用 : <https://extension.vetmed.ufl.edu/files>